

Infinito 通信

Infinito サッカーダイレクター
通信 第1号
発行者：喜多 脩人
2024年5月

した。そうやって試行錯誤していく中で、自分の選手時代の感覚でサッカーを教えることに限界を感じ始めてきました。(自分のイメージが子供たちに伝わらない。伝わる子と伝わらない子の差がはっきりするなど、)

そこで日本サッカー協会が管轄の指導者養成講習会に出向き、日本サッカー協会公認の資格を取ることにしました。(資

格がほしかったわけではなく、その内容に興味がありました)

初めて行った講習会で今まで自分が感覚で指導してきたことを更に痛感しました。併せて、わからない子ベースに立って選手ファーストで指導に携わることやプレーの言語化の重要性を学び、自チームを強くするためには指導者側が正しいことを伝えていかなければいけないことを改めて感じました。

それが教員になって3年目の25歳の時でした。それから可能な限りで指導者講習会に顔を出し、まな板の上に乗る、自分の指導をばっさりばっさり切られ続ける日々でした(笑)

大変な日々でしたが、その中でも確実に自分の指導力は向上していると実感できたので充実した日々でした。そんな生活をしている中でサッカー以外の学校生活や生活指導にも力を注いでいったら少しずつチームの成績も向上していきました。そんなタイミングで自分が取得したC級の1つ上のライセンスのB級講習会に北海道推薦指導者として選んでいただくことが出来ました。

その講習会には元プロサッカー選手や日本のJクラブでユース年代を指導されている方、自分でサッカー教室を運営されている方など一緒に学ばせてもらうには恐れ多い方がたくさんいました。

教員という仕事をしながらB級ライセンス講習会に参加していたのは私だけだったので、「なんでサッカーを教えることで給料をもらっているわけじゃないのにここに来たの」とごもったもな質問を受けるような形でなんとか輪に入ってきました。熱量だけでなんとかしました(笑)

その講習会で出会った方が今回のタイでの挑戦のきっかけを作ってくれた方です。その方はJリーグで14年、タイで5年間プロとして活躍されていた方です。出会ってからこれまで、お互いの近況などを報告したり、わざわざ北海道の私が

● 保護者の皆様はじめまして

ご挨拶が遅くなり申し訳ございません。3月27日に来タイし、4月1日より本格的にこちらのサッカースクールでお世話になっている喜多と申します。今後は月に1回程度のペースで来てくれている子供たちと保護者の皆様と私たちinfinitoスタッフを繋げるツールとして通信を発信していこうと思います。(前職が日本の高校教諭だったためこの手の通信等は得意分野です)

● 自己紹介～来タイの経緯～

喜多脩人(きた しゅうと) 1990年生まれ 33歳 北海道出身
北海道の十勝地方帯広市出身(酪農や豚丼などが有名)。高校を卒業するまで地元で生活をし、毎日サッカーばかりやっているサッカー小僧でした。父親が小学校教員だったため、その影響を受け、比較的早い時期から教員の道に進みたいと考え始める。(今は自分の天職だと思っていますが、小学校時代は何か悪いことをすると学校にいる父親にすぐ報告が入り怒られるので最悪な職業だと思っていました(笑))

教員免許を取得することを目的に札幌市の大学に進学。無事4年間の中で中学校社会科、高校政治経済、高校地理歴史、高校商業の免許を取得することが出来ました。大学在学時から高校時代にお世話になった恩師に「うちの学校に戻ってこないか」と熱心に誘っていただき、大学卒業のタイミングで地元に戻り、母校で働かせていただくことになりました。自分のなりたかった職業に就けたことと母校で自分の代では成し遂げられなかったことを指導者の道で志すことを決めま

指揮を執るチームの視察に来てくれたりして親交を深めました。母校で10年間働かせていただき、新しいチャレンジや刺激を求めていることを相談していく中で2年前の3月に「一度タイと一緒に一緒に行ってみないか」と誘っていただき、初の海外旅行に行きました。それは今までの自分の生活がどれほど狭いコミュニティの中で生活していたのかを教えてくれるには十分すぎる衝撃でした。それから自チームの後任に引継ぎを行いながら、教育とサッカーに携われる新しい環境がないか探していたところ、infinito さんとのご縁がありました。

● 指導理念、大切にしていること

文字ばかりで長くなり、申し訳ございません。どんな人物なのかもよくわからずお子さんをお預けするのは不安かなと思ひ、しつこいくらいに経歴説明させていただきました。文章の中でもあった通り、私はプロサッカー選手だったというキャリアは持ち合わせていません。しかし、サッカーを教えること、出来なかったことが出来るようになる、出来るようにしてあげるといった指導力はずっと積み重ねてきたことなので負ける気がしません。その中で、サッカースクールなのでサッカーを教えることは大前提ですが、サッカーよりも大事なこと（たくさんありすぎて記載できません）も併せて子供たちに伝えていけたらいいと考えています。高校生と対峙していたときは「向き合う」ことばかり考えてきましたが、今後は「寄り添う」ことに力を注いでいきたいと思います。宜しくお願い致します。

「学ぶことをやめたら教えることをやめなければならない」

2002年の日韓ワールドカップが開催される前年、
2001年に開催されたフットボールカンファレンスの講演にて、
フランス元代表監督のロジェ・ルメールが発した言葉らしいです。
今でも日本の指導者養成の中では必ずといっていいほど紹介される言葉です。

● infinito のみんなへ

すでに、ほとんどの子どもたちと会うことが出来ましたが、みんなコーチをあたたくむかえてくれてありがとう。タイのことはまだわからないことばかりなのでこれからたくさんコーチに教えてください。

こまったことやわからないことがあればいつでも聞いてください。
これからもよろしくお願ひします。

